

当病院で活動されているドクターに、各専門分野での取り組みや、医療への想いを語っていただきます。

vol.8

消化器内科 科長

内藤 健夫 ないとう たけお 先生

専門：消化器内科 得意分野：下部消化管疾患
炎症性腸疾患



——先生はどちらのご出身ですか？十和田にいらしたきっかけなどありましたら教えてください。

宮城県仙台市出身です。十和田市には東北大学の医局教授のご高配もあり、赴任するに至りました。

——内藤先生から見る十和田市はどのような印象ですか。

十和田市立中央病院で言えばスタッフもとても親切ですし、働きやすい病院だと思います。医療的なシステムも整っているのでやっぱり働きやすい、ということですかね。十和田市は食べ物がおいしいし、子どもの遊ぶところも多いし、自然が多いので良い街という印象ですね。

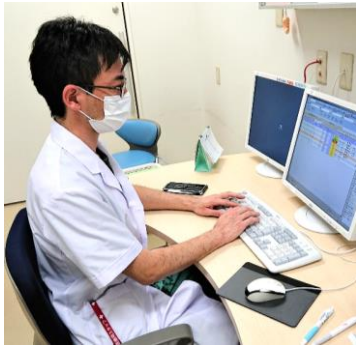
——普段、消化器内科ではどのような診療や検査が行われていますか。

胃カメラ、大腸カメラ、それに付随したポリープを取ったり、（早期）がんを取ったり、胆膵系の内視鏡が主な業務となっています。

——消化器疾患で多い症例や症状はどのようなものがありますか。

症例として多いのはやはり大腸ポリープです。早期の胃癌などもよく見ます。症状としては腹痛などでいらっしゃる方もいますが多くは健診や内視鏡検査で発見される方が多いです。まずは全身状態を見て、必要な検査をして診断をつけてから然るべき処置を行うといった流れになりますので、とりあえずは検査に来ることが前提になります。

— 消化器内科医として心がけていることやご苦労されていることはありますか。



ひと昔前に比べて現在は内視鏡で検査も含め治療できる病気が増えてきているという観点で言えば患者さんの負担が少なく、かつきちんと治療できるように、を心がけています。苦労している事とすれば、消化器内科だけの事ではありませんが、消化器内科医が3人しか居ないのでマンパワーが不足していることが苦労する部分でしょうか。5～6人の医師があればローテーションも組みやすいですし、患者さまをお待たせすることもないと思います。

— これから実践してみたい活動や取組みがあれば教えてください。

これから健診シーズンが始まりますので、いかに効率良く、そして病気や治療できる段階で発見に繋がられるか、を当面の目標にしたいと思います。早期発見が患者さまに貢献になると思いますので…。

— 仕事が off の時の楽しみは何ですか。趣味などがあれば教えてください。

そうですね、家族に会うことが楽しみですね。単身赴任でこちらにいますので、休みの日は家族で過ごせばいいなあ、と思います。趣味は大学までやっていた野球です。

— 市民へ向けたお願い、メッセージをお願い致します。

国立がん研究センターの統計データ（2019年度）では、死亡数が多い疾患部位として

【男性】1位（肺）、2位（胃）、3位（大腸）、4位（膵臓）、5位（肝臓）

【女性】1位（大腸）、2位（肺）、3位（膵臓）、4位（胃）、5位（乳房）

となっており、消化器疾患が男女ともに上位を占めていることが伺えます。さらに、胃や大腸などの消化器系のがんは全年代（40代～100代）を通して平均的に発症しているというデータもあり、年齢が進むにつれて発症率が高くなる他部位のがんとは性質が異なります。

また、がんと診断されてからの5年相対生存率では胃は67.5%、大腸は71.7%と高い生存率がデータとして示されています。死亡数が多いにも関わらず5年生存率が高いという事はつまり、がんを早期に発見、治療できれば生命を救える部位であるということです。何度も言いますが、定期的に内視鏡検査を受けていただければ、治療できる段階で病気を見つけられます。健診でも内視鏡検査を選択出来ます。希望があれば外来で予約をとることが出来ますので相談いただければと思います。よろしくお願い致します。



所属学会：日本内科学会、日本消化器病学会、日本内視鏡学会

資格情報等：総合内科専門医、消化器病専門医、難病指定医、医学博士